

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6 年 3 月 28 日

公表:令和 6 年 3 月 29 日

事業所名 はぐぼん藤が丘駅前

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		物が多いので、収納に工夫している。勉強と遊びのスペースを分けることが可能。机を可動式にしている。	
	2	職員の配置数は適切である	5	1	学校の宿題、見学対応などできるように配置されている。	もう一人パート職員が欲しい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	エレベーターがあり、フリースペース。	バリアフリーではないので、必要があれば改善していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		週報の記入、長期目標の設定。定期的な会議の実施、意見を言い合える。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		アンケートの実施、送迎時の保護者とのコミュニケーション。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		新人研修、職員研修、管理者研修など行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		保護者からの情報をもとに作成、子どもの様子によって作成しなおしたりもしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	統一の書式があり。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		チームで話し合っていて決めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		キッズヨガのオリジナル検定を導入。季節感も大事にしている。同じレッスンでも担当を変更。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		レッスンとは別に、工作やゲームの準備やお出かけの企画(地域でのお買い物や	公共の交通機関の活用。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		子どもによって、集団活動メインか、個別対応が必要か、計画を立てている。土曜日は個別対応にしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		毎朝エフアでは朝礼、事業所内ではブリーフィングの実施。おやつ、送迎、レッスンの担当決め。個別対応が必要な子への対応	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		ブリーフィング時に共有。ラインワークスでも共有。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		ブリーフィングの記録。日報、連絡帳での記録。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6		ガイドラインの総則を確認し、当てはまるようプログラムを行っている。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		参加できている。管理者が参加できない時は事業所内で打ち合わせ後、職員にお願いしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		訪問や、送迎時の共有だけでなく、行事予定などについて不明な点は直接確認。特別対応が必要な時は相談している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	1	協力医療機関へはあいさつを行っている。	現在は対象児はいません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3	保護者を通じて保育園からの情報も共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	4	現在対象者がいない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	2		今後は、訪問を行っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4		同グループ内の学童とイベントなどで交流を行っていききたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	部会には定期的に参加	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		連絡帳の記入。送迎時の伝達。電話やメールでの共有。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	保護者から相談を受けたときは対応している。	保護者会での講演会などの実施。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		見学や契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		相談があれば、面談やメール、電話など対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2		今後保護者会を開催予定あり。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		アンケートなどで得た苦情は職員間で共有。適切に対応している。本部にも相談できる環境である。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	月間の予定表を発行。随時メールも送信している。	
	35	個人情報に十分注意している	6		鍵のついた書庫に保管。厳重に管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		発話の少ない子には、言葉遣いに気を付け、絵など示している。	繰り返し伝える、文字で残すようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3		桜祭りなど、地域の住民と関われる機会を作っていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	事業所内に避難場所や経路を掲示。	保護者にまで行っていないので、定期的に発信していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		月に1度、レッスンに組み込み、避難場所の確認などを行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		委員会の設置、研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		契約時に説明。同意書への記入を徹底。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	保護者からの聞き取りや、原材料の確認を行ってもらっている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		シートに記入、事業所内で共有。	